大津皇子、竊かに石川女郎に婚ふ時に、津守連通、その事を占へ露はすに、皇子の作らす歌一首

一〇九番

大舟の　津守が占に　告らむとは　まさしに知りて　我が二人寝し

日並皇子尊、石川女郎に贈り賜ふ御歌一首

一一〇番

大名児を　彼方野辺に　刈る草の　束の間も　我忘れめや

吉野宮に幸せる時に、弓削皇子、額田王に贈り与ふる歌一首

一一一番

古に　恋ふる鳥かも　ゆづるはの　御井の上より　鳴き渡り行く